

平成25年度 自己点検・自己評価
項目別の自己評価表

学校法人 呉竹学園
呉竹鍼灸柔整専門学校
— 自己点検・自己評価委員会 —

2014年6月

【はじめに】

本校では、平成21年から「自己点検・自己評価委員会」を組織し、教育活動及び学校運営の改善、適正化を図るとともに、その結果を公表しています。

自己点検・自己評価における各評価項目は、「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、教育活動や財務状況など全60項目以上を設定し、各項目毎に4段階(④適切、③ほぼ適切、②やや不適切、①不適切)の評価を行っています。

評価にあたっては、医療関係職種養成校として中長期的に社会ニーズを踏まえた職業実践的な教育を展開するために必要な教育上の措置や、適正な学校運営を持続していくために組織としてどのような取り組みを行っていくかという観点から、これまでの評価結果に慢心することなく常に問題意識を喚起し、それらの課題に対する具体的な解決策、改善策を継続的に講じているかを評価の焦点にしています。

従って、将来にわたり、より質の高い教育活動と適正な学校運営を継続していく為に、評価結果の善し悪しに関わらず厳しい視点を持った評価を行うことで、学校としての自助努力、自浄能力を高め、社会から信頼される学校づくりを目指します。

さらに、平成25年度からは、学校が主体的に行う自己点検・自己評価の結果に対して、業界関係者や保護者、卒業生などの外部関係者で構成される「学校関係者評価委員会」による客観的な評価を受け、その結果を公表することで、教育活動及び学校運営の透明性を確保すると同時に、学校教育に対する具体的な提言を受けることによって、更なる職業教育の質の維持向上を図って参ります。

I. 自己点検・自己評価委員会による評価結果の総括

自己点検・自己評価委員会では、平成25年度の評価結果について、次のとおり報告する。

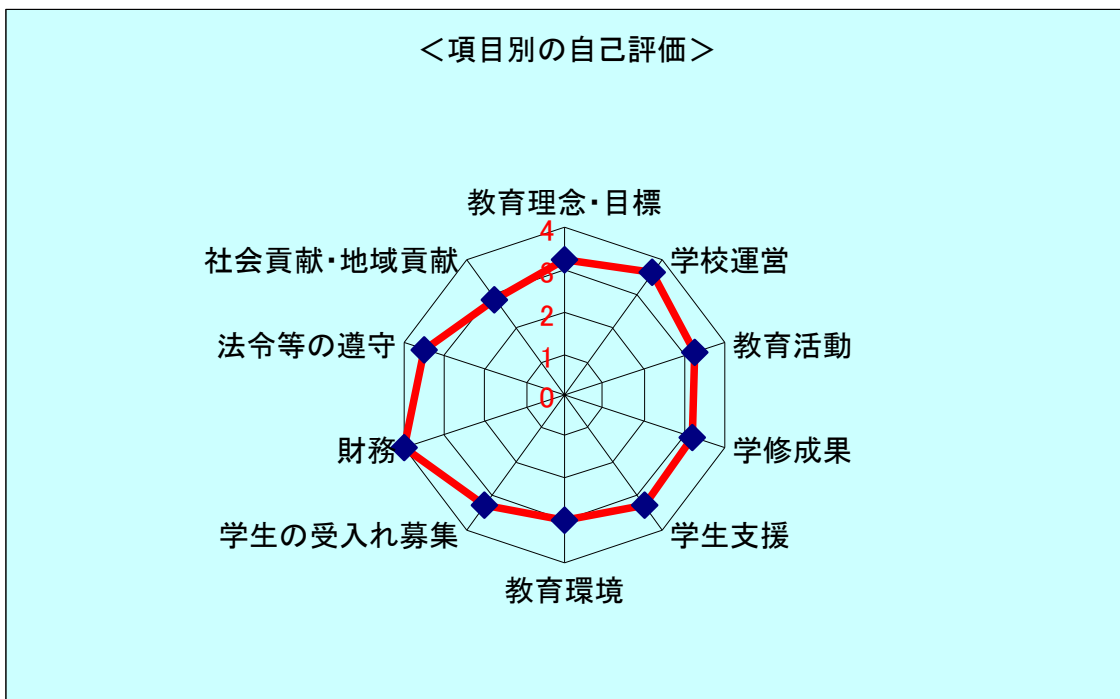
まず、平成25年度の教育成果として、卒業生全員(3学科156名)が国家試験に合格したことは特筆すべき事である。例年90%以上の合格率を保持しているが、全ての学科で合格率100%を達成した例は全国的にも少ないことから、60年以上続く伝統校としての教育水準の高さを示していると考えられる。

次に、平成25年度における学校全体の大きな取り組みとして、①「学校関係者評価の実施」、②「教育課程編成委員会の設置」、③「FD活動の推進」等が挙げられる。これらの取り組みは、外部関係者、関連業界との連携のもと、より実践的な職業教育の質の維持向上を図ることを目的として実施された。そして平成26年3月31日には、文部科学大臣から「職業実践専門課程」の認定を受けることとなり、公的にも職業教育校としての質の担保がなされたとみて良い。

一方で、こうした取り組みは始めて間もないことから、現時点で正しい評価を与えることができない。また、各小項目ではそれぞれ具体的な課題等が散見され、内部的にもコンプライアンスや学校組織の統治(ガバナンス)のための規程整備が十分とは言えず、外部に対しては社会貢献・地域交流が不十分であり、今後、学校が社会的責務を全うしていくためには、業界や社会に対して積極的に関与する行動がさらに求められる。

特に、鍼灸・柔整の業界においては、社会構造や学校教育を取り巻く目まぐるしい環境変化の影響を受けており、こうした環境変化や社会ニーズに柔軟に対応することが求められると同時に、創設者の建学の理念を遂行していくためにも、これまで斯界をリードしてきた当校が他校の模範となるようにより一層努力することが求められる。当然ながら、旧態依然の体質のままでは学校としての成長は見込まれない。従って、今後10年、20年先を見据えた教育活動及び学校運営を組織として主体的、且つ永続的に取り組む必要がある。

尚、各項目ごとの評価点数(4段階評価)は、下記のレーダーチャートに示したとおりであり、全体の評価点数の平均値は「3.3」となった。



Ⅱ. 項目別の評価

(1) 評価の方法について

項目別の評価では、「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、次の10項目に分類してそれぞれ評価を行っている。

- ①教育理念・目標
- ②学校運営
- ③教育活動
- ④学修成果
- ⑤学生支援
- ⑥教育環境
- ⑦学生の受入れ募集
- ⑧財務
- ⑨法令等の遵守
- ⑩社会貢献・地域貢献

各評価項目に対しては、4段階評価(④適切、③ほぼ適切、②やや不適切、①不適切)を行い、各項目ごとに、(1)「課題」、(2)「今後の改善方策」、(3)「特記事項」を記載した。

尚、「特記事項」には、主に学校が取り組んでいることや特色などが盛り込まれている。

(2) 学校の教育目標について

本校の教育活動の根幹となる、「教育理念」、「教育目標」及び「育成人材像」は次のとおりである。これを踏まえた上で、教育活動及び学校運営に関する評価を行う。

【教育理念】

人類の保健と伝統医学の発展に寄与し、広く社会の信頼と尊敬を得る医療人を育成することによって、社会貢献を果たすことを教育理念とする。

【教育目標】

あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師、柔道整復師として、十分な知識と技術を身につけ、柔軟な思考力を持った、全人的な医療を施すことができる懐の深い医療人を育成することを目的とする。

【育成人材像】

- (1) 医療現場において、患者の心と体を癒すことができる医療人としての人格を持つ人材
- (2) 医療を行うにあたり必要な知識、技術と十分な臨床力を身につけた人材
- (3) 実践教育を行い、医療を通じて社会に貢献できる人材

(3)本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画について

- ①キャリアサポート体制を見直し、キャリアサポートの強化を図るため、各科卒業生によるキャリアガイダンス(企業講演会)の実施と業界人による「治療家 心の授業」を実施する。
- ②教員の授業内容・方法の改善、向上させることを組織的に取り組むため、各校で共通する課題解決を取りまとめる「呉竹学園 教育センター」を立ち上げ、FD活動を実施する。具体的には、全教員を対象としたセミナーや各科の教員を対象にした勉強会を実施する。

(4)評価項目の達成及び取り組み状況について

1)教育理念・目標

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
理念目的育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
学校における職業教育の特色は何か	4 ③ 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4 ③ 2 1
理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4 ③ 2 1

【課題】

- ①今後の社会ニーズを踏まえて、医療現場で他の医療の人たちと共に活躍できる人材の養成に力を入れて行くことが必要である。
- ②学生の基礎的学力、学習意欲の低下等により、専門職に必要な知識、技術の習得が困難な学生が増えていることから、職業教育としての特色を最大限に発揮するためにも、これらの対策が必要である。
- ③かつては独立生計を営む社会人が多くを占めていたが、近年、学生が若年化していることから、就学においては保護者との関係・連携も視野に入れていく必要がある。

【今後の改善方策】

- ①社会ニーズを踏まえた知識、技術の提供をしていくため、先導的試行として「特修コース」を設定し、通常授業の中に、実践可能な「スポーツ」や「介護・介助」等の要素を取り入れていく。
- ②職業教育を実践していくため、教育センター及び既卒者対象の「Kuretake 塾」でのノウハウを活用しながら、学生個々の能力に応じた個別指導、効率的な補習などを実施していく。
- ③保護者に対して学校への理解を促進していくため、学校が考える教育方針や各種行事などを周知する。また、入学前の学校説明会等でも保護者に必要な情報を提供していく。

【特記事項】

- ①平成27年度に向け、鍼灸科(午前)および柔道整復科(午後)に、社会ニーズを踏まえた「特修コース」の教育内容について検討を行った。
- ②「呉竹学園 教育センター」、「Kuretake塾」を開設した。
- ③学校に関係した講習会や行事の連絡を保護者に行った。

2) 学校運営

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
目的等に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
人事、給与に関する制度は整備されているか	4 ③ 2 1
教務財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④ 3 2 1

【課題】

- ①教育目的に沿った運営が効率よく行われるよう一層の教員の教育力と技術力の強化を図る必要がある。
- ②リスク管理の観点から保管文章全般についてデータ管理化などの検討が必要である。
- ③法令倫理、世論に照らし合わせたコンプライアンス体制の見直しと整備が必要である。

【今後の改善方策】

- ①FD活動、卒後講習等を通して、教員個々の教育力や技術力のさらなる増進を行っていく。
- ②リスク管理の観点から、保管文書のうちデータ化されたものからバックアップをとり、管理していく。
- ③各校ごとのコンプライアンス体制の見直し、整備を進めつつ、教職員への周知徹底を図っていく。

【特記事項】

教育センターを中心に教育セミナーや勉強会を行い、学生へのアンケート調査や卒業試験、国家試験の結果を分析し、教育現場にフィードバックした。

3) 教育活動

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 ③ 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4 ③ 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発などが実施されているか	4 ③ 2 1
・関連分野の企業・関連施設等、業界団体等のニーズを踏まえた教育活動がされているか。	4 ③ 2 1
関連分野における実践的な職業教育(企業との連携によるインターンシップ、実技、実習等)が体系的に位置づけられているか	4 3 ② 1

授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
学生の研究に対する支援体制はあるか	4	③	2	1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	②	1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
関連分野における先端的な知識技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など 資質向上のための取組みが行われているか	④	3	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

【課題】

- ①医療機関との連携によるインターシップなどを取り入れることにより、実践的な職業教育を教授するにあたり、医療全般にわたっての知識技術も養っていかなければならない。
- ②優れた臨床能力を持った教員の養成、また、教授力、指導力を持った教員の養成が課題である。また、柔道整復科では、法制度上、医師にしか教授することが認められていない科目があるため、医師の安定的な確保が難しい状況となっている。
- ③社会、業界のニーズを踏まえた教育活動を充実させていく必要がある。

【今後の改善方策】

- ①基礎知識、基礎技術を修得させた上で、医療機関との協力によるインターンシップを実施する。
- ②教員の教育力の強化を図るため、教育センターを中心としたFD活動を推進していく。
- ③医療分野の教育に今後求められる「地域包括ケア」を見据えた内容を盛り込んでいく。

【特記事項】

- ①より実践的な職業教育を展開していくため、関連企業等の外部関係者による「教育課程編成委員会」を開催し、その結果を教育カリキュラムに活用した。
- ②客観的な実技評価を実施するため、学校協会から派遣された教員による実技評価を取り入れた。
- ③平成26年3月31日、文部科学大臣より職業実践専門課程の認定を受けた。

4)学修成果

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1			
就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

【課題】

- ①医療関係職種においては、就職が最終ゴールではなく、治療経験を如何に積むかが最も大切なことであるが、卒業後あるいは就職後に現場即戦力となる治療家を育成するために、治療に直結するような教育力の向上に一層努め、就職へのマッチングを強化していく必要がある。
- ②学科全体では、社会人が半数以上を占めることから、その退学理由についても、仕事の都合や病気、親の介護など一般的な事情と異なる特殊なケースも見られるが、勉強面においては退学者をなるべく出さないための早い段階での対策について、教員の指導力向上も含めて継続的に検討していく必要がある。
- ③「就職売り手市場」である斯界においては、国試合格後(卒業後)に就職先を決定する者が多く、また卒業後に転居する者もあり、これまで卒業生1人1人の正確な就職状況を把握することが難しい状況にあったが、卒業生への連絡方法を含め、卒業生のキャリア形成の効果や動向を把握するための体制を整え、それらの情報を教育活動に活用していかなければならない。

【今後の改善方策】

- ①治療家としての具体的なビジョンを描かせるため、キャリアサポート体制を見直すとともに、その強化を図る。具体的には、卒業生や業界関係者による企業講演会やガイダンスを実施する。
- ②学力低下等に起因する退学等については、早期に対策を立てられる可能性もあることから、教育センターを通じて退学者の分析を行い、対策可能なところから着手していく。また、入学前の学校説明会等では、実際の勉強や授業の内容などを伝え、入学のミスマッチを可能な限り減らしていく。
- ③在学中から就業状況の調査や進路調査を行うことで進路への意識を高めてもらうとともに、卒業後の調査があることを周知させ、卒業生の正確な動向把握に努める。

【特記事項】

資格取得では、平成25年度の国家試験において、卒業生全員(3学科156名)が合格した。

5) 学生支援

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1
卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1
国家試験不合格者に対する支援体制はあるか	④ 3 2 1

【課題】

- ①進路・就職に関する支援体制の一貫として、キャリアサポート体制を見直していく必要がある。
- ②学生相談においては、非常にデリケートな問題を内包している学生の精神的な面でのサポートまで踏み込むことが難しい。
- ③学生が若年齢化してくれば、保護者との関係構築は必須である。
- ④高校との連携による職業教育を考えていかなければならない。

【今後の改善方策】

- ①医療関係職種に相応しいキャリアサポートのあり方を構築していく。
- ②教育センターを中心に学生対応に関するセミナーを開催し、悩みを抱える学生に対して適切に対応できるようにしていく。また、学年主任だけでなく、学生が相談しやすくなるよう、なるべく多くの教員で対応できるようにする。
- ③保護者との相互関係を構築していくために、学校の教育方針、内容に関することを積極的に保護者に提供し、関係構築を進めていく。
- ④中等教育から高等教育(専門教育・職業教育)への架け橋となるよう、高校ガイダンスへの出席機会を増やすとともに、正確な職業現場の状況を伝えていく。また、神奈川県専門学校各種学校協会主催の「仕事の学び場」に参加する。

【特記事項】

- ①学生の健康に関しては、学校保健安全法に基づき、学生及び職員の健康診断を実施している。
- ②学生の経済的側面の支援では、日本学生支援機構奨学金や提携教育ローン、日本政策金融公庫の教育ローン等を紹介している。また、社会人向けの教育訓練給付金制度の申請手続きを始めている。

6)教育環境

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4 ③ 2 1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

【課題】

- ①法定で定められている教育設備は一律に備えているが、今後の社会ニーズを踏まえた教育を提供するにあたり、各実習に必要な設備の検討が必要である。
- ②柔道整備における施術所が、臨床施設として十分に活用されておらず、また社会ニーズを踏まえた教育体制(高齢者対策、スポーツ障害への対応等)の構築やインターンシップの仕組みを整える必要がある。

【今後の改善方策】

- ①本校の目指す教育方針に基づき、介護・介助関係の器具機材の充実等、準備を進めていく。
- ②柔道整備科施術所の積極的な活用及び運用体制の構築や、社会ニーズを踏まえた教育体制の構築、さらにインターンシップを実施していく。

【特記事項】

防災に対しては、消防計画に基づき適切に対応しているが、さらに自主的に危機管理マニュアルを作成し、全職員と共有している。また、地震や火災などの防災に関するセミナーに参加し、それを教訓として、災害時の食料や防災関連用品の備蓄を行っている。学生に対しては、火災を想定した避難訓練、地震発生時の対応等の訓練を定期的実施している。

7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
学生募集活動は、適正に行われているか	4 ③ 2 1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4 ③ 2 1
学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

【課題】

学生募集に関しては、入試に関する倫理要項に基づき適正に行っているが、受験生が減少している現状を鑑みると、本校の教育成果が十分にかつ正確に伝えられていない可能性がある。

【今後の改善方策】

ホームページや入学案内、学校説明会等で、志願者にとって必要な情報や職業理解を促進する為の正確な情報を提供するように努める。また、卒業生のアンケート結果の情報も志願者にフィードバックして。

【特記事項】

学生募集に関しては、関係法令及び倫理規定等に従い定員を遵守し、適正な時期に適正な手続き方法により実施している。また、学納金についても教育施設及び教授する教育内容と照らし合わせて、一般的に妥当性のある学費となっている。

8) 財務

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
年度予算、中期計画は有効かつ妥当なものになっているか	④ 3 2 1
財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

【課題】

設置規制緩和による同種養成施設の増加、18歳人口の減少、大学進学指向の高まりなどにより、受験生が大幅に減少し、一部の学科で定員割れが見られるなど、学生募集は非常に厳しくなっている。学校の財務基盤は学生生徒納付金に依存することから、学生募集の状況によっては財務基盤が脆弱になるおそれがある。従って、受験生(入学者)を増やし、退学者を極力減らすことが課題である。

【今後の改善方策】

安定的な学校経営に必要な定員を確保するため、学生募集について一層の努力を行っていく。具体的には、HPの充実の他、スマホなどの新たな携帯端末に対応したインターネットサイトの訴求力強化、高等学校等における進路ガイダンス参加の増加、充実した学校説明会の開催などである。また、退学者の予防策として、学生の悩みに対応出来る教員の強化、成績不良者への対応、医療に対するモチベーションの向上などを継続して取り組んでいく。

【特記事項】

本校は借入金がなく、経費節減などに努めてきた結果、健全な財務状況を維持している。また、その財務状況については、ホームページ上に「財務諸表」として公開している。

9) 法令等の遵守

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4 ③ 2 1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1
自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④ 3 2 1
自己点検・自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

【課題】

法令遵守にあつては、教職員間において周知徹底を図り、継続的な教育・訓練等を通じて適切に機能する組織作りが必要となる。

【今後の改善方策】

コンプライアンス及び個人情報の取扱いに関しては、担当責任者会議等を通して教職員全体で共有しながら対応していく。また、コンプライアンスを推進していくために、学内の諸規程を見直し、整備していくとともに、個人情報の取扱いについても、外部流出を防ぐためのパスワードや保管庫による管理の他、パソコンのセキュリティに関するレクチャーを行うことで適切に対応していく。

【特記事項】

自己点検自己評価の実施及び公表のみならず、外部関係者による学校関係者評価を実施し、その結果を公表している。

10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切-4、ほぼ適切-3 やや不適切-2、不適切-1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4 ③ 2 1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	4 3 ② 1
地域との連携・交流をしているか	4 ③ 2 1

【課題】

- ① 人員等の内部体制の都合により、ボランティア活動に積極的に参加することができていない。
- ② 地域に対する公開講座等を定期的に行っていない。

【今後の改善方策】

- ① 教育資源を活用する体制を整え、公的な団体、或いは関連業団が主催するボランティア活動に積極的に参加していく。
- ② 専門性をいかした、健康・スポーツ・美容等に関する公開講座を開催していくようにする。

【特記事項】

- ①毎年、学園祭にて「チャリティーマッサージ」「チャリティー鍼灸」を実施し、その収益をチャリティーとして、福祉団体等に寄付している。尚、平成25年度は日本赤十字の東日本大震災義援金として寄付した。
- ②地域のビル環境協議会、町内会に参加している。また、「横浜F・マリノス」のスポンサーとして、地元ホーム(日産スタジアム)を応援している。

(5)学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

専門学校のキャリア教育・職業教育は、卓越した又は熟達した実務の知識・経験に基づく高度な専門的かつ実際的な知識・技術などを教授することであり、教育の質を担保するためにも、教育等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表することによって、職業教育の充実を目指す必要がある。

これを踏まえ、平成24年度の評価結果に基づき、平成25年度には教育センターを立ち上げ、教員の教育力・技術力の強化を図っている。しかしながら、まだ取り組み始めてから日が浅く、学生による授業評価や学生指導の対応などにおいて、意義のある成果又は評価を出せるまでは至っていない。今後も、FD活動を通して、教員個々の能力を向上させるために、組織的且つ持続的に取り組む必要がある。

同時に、インターンシップの導入など、これまで以上に企業との連携強化を図ることで、より実践的な職業教育を展開できるよう努めていく。また、超高齢社会を迎え、社会のニーズに対応した医療体制に対応できるような幅広い知識と技術を持った資格者の養成に努めていく。

以上